

開館日カレンダー 2023年4月～9月までの予定

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

■ 休館日 ■ 特集展示「見る、知る、学ぶ! 岩槻の人形学」 ■ 特別企画展「中村信喬(仮)」 ■ 展示室1・2(常設展)のみ開室 ● 常設展展示解説 午後2時～ ※申込不要、要観覧券
★ ワークショップ ◆ 特集展示関連イベント ◆ 5月1日「さいたま市民の日」は、臨時開館(観覧料無料)
 ※5月9日(火)～11日(木)は、館内くん蒸作業の実施に伴い、臨時休館となります。

これからの展覧会

特別企画展「中村信喬(仮)」

2023年7月29日(土)～9月10日(日)
 伝統と技術を継承しながら、常に“挑戦”を続ける、人形師・中村信喬(1957～)。過去から現在に至る中村氏の作品を紹介しながら、「人形」の未来について考えます。



人形師・中村信喬氏

特別展「岡本玉水(仮)」

2023年10月7日(土)～12月3日(日)
 昭和初期の人形芸術運動を語るうえで欠くことのできない岡本玉水(1898～1972)。玉水とは如何なる人形作家であり、人形界にどのような足跡を遺したのか。作品を通してその生涯を追う回顧展です。



「同胞」岡本玉水 昭和15年(1940)

【にぎわい交流館いわつき】

博物館に隣接する、にぎわい交流館いわつきでは、体験講座やイベント、カフェ・ショップでの食事や買物をお楽しみいただけます。(Tel.048-757-2981 / Fax.048-793-4074)
 ※イベント等の詳細は、ホームページをご覧ください。
<https://www.nigiwai-koryukan.jp/>



基本情報

【開館時間】 午前9時～午後5時 ※入館は閉館時刻の30分前まで
【休館日】 月曜日(休日の場合は開館) / 年末年始(12月28日～1月4日) ※臨時に休館・開館することがあります。
【観覧料】 一般：300円(団体：200円) / 高校生・大学生・65歳以上：150円(団体：100円) / 小学生・中学生：100円(団体：50円)
 ※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。※団体は20名以上。
 ※展覧会により観覧料が異なる場合があります。
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入館を制限したり、展示・イベント等を予告なく中止・変更する場合があります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。
 ※掲載資料のうち、特に表記のないものはさいたま市岩槻人形博物館蔵です。

インスタグラムで情報発信しています!
https://www.instagram.com/iwatsuki_ningyo_museum/?utm_source=qr

〒339-0057
 埼玉県さいたま市岩槻区本町6-1-1
 Tel.048-749-0222 Fax.048-749-0225
<https://ningyo-muse.jp/>
 IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS Vol.05
 2023年3月発行 編集・発行：さいたま市岩槻人形博物館

※このリーフレットは30,000部作成し、1部あたりの印刷経費は約12円です。



◎交通案内
【電車をご利用の場合】 東武アーバンパークライン(野田線)「岩槻駅」から徒歩約10分
 ※大宮駅から岩槻駅までの所要時間は約12分です。
【車をご利用の場合】 東北自動車道「岩槻IC」出口から約5.5km、車で約12分
 ※駐車場は、普通自動車用28台、車いす用2台、乗降スペースは、大型バス用2台分があります。なお、にぎわい交流館いわつきとの共用です。

IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS

Vol.05



御所人形 鶏合(部分) 江戸時代

特集

特集展示「見る、知る、学ぶ! 岩槻の人形学」

Contents

特集展示「見る、知る、学ぶ! 岩槻の人形学」 / 常設展 Close-up / イベント Information
 学芸員の研究ノート第5回「岡本玉水と平田郷陽 ～共に歩んだ人形芸術への道～」
 開館日カレンダー / これからの展覧会



特集展示

「見る、知る、学ぶ! 岩槻の人形学」

2023年4月29日(土・祝)―7月2日(日)／展示室3

埼玉県は節句人形の生産量で全国一位を誇り、なかでも、さいたま市岩槻区は日本有数の人形産地“人形のまち”として知られています。しかし、「岩槻ってどんなところ?どうして“人形のまち”になったの?」「岩槻の人形はどうやって作られているの?」「岩槻の人形ってどんなもの?」と疑問に思われる方も多いかもかもしれません。

本展では、「岩槻の人形学」と題し、岩槻が“人形のまち”になるまでの歴史や、岩槻で作られる人形とその製作工程について、10個のポイントを紹介します。意外と知らない岩槻の歴史や人形作りについて、一緒に学んでみませんか。

《休館日》
月曜日(5月1日(月)は開館)、館内くん蒸期間(5月9日(火)～11日(木))

《観覧料》
一般/300円(200円)、高校生・大学生・65歳以上/150円(100円)、小学生・中学生/100円(50円)
※()内は20名以上の団体料金。※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。
※5月1日(月)は、さいたま市民の日につき観覧料無料。

- 《関連イベント》
- 1 ワークショップ にんらボ「なかのヒミツ 桐壱編」
日時：5月27日(土) 午後1時30分～3時／講師：当館学芸員およびボランティア
定員：16名／対象：小学3年生以上／参加費：200円／会場：当館会議室
応募締切：5月8日(月)
*申込方法はイベント Information をご覧ください。
 - 2 ボランティアによるGW特別展示解説
日時：5月3日(水・祝)、5日(金・祝) ①午後2時～、②3時～ 各回20分程度
*申込不要、要観覧券。当日展示室前にお集まりください。参加人数を制限する場合があります。



見どころ紹介
ぜひ   を見てください!

岩槻ゆかりの人形作家・鈴木賢一

鈴木賢一(1918～2010)は東京に生まれ、近代御所人形の創始者と名高い野口光彦のもとで学び、昭和39年(1964)に岩槻へ移住、東玉人形工場の主任人形作家として活躍しました。工房での製作に励みながら、岩槻の人形師たちによる研修会では講師を務めるなど惜しむことなく自分の技を教え、岩槻の人形産地としての技術向上にも貢献したといえます。

また、伝統工芸展や日展、埼玉県展などへの出品も続け、子供をモチーフとした御所人形風の木目込人形を中心に、デフォルメ・抽象化した造形など様々な作風に挑戦した作家でした。平成16年(2004)には、江戸木目込人形の埼玉県無形文化財保持者としても指定されました。

本展では、令和5年(2023)3月に鈴木家のご遺族よりご寄贈いただく予定の作品も含めて、岩槻ゆかりの人形作家・鈴木賢一の作品を展示します。岩槻の人形師たちから「先生」と慕われ敬われた技術と、その手によって生み出された人形たちをどうぞお楽しみください。



「五月晴」 鈴木賢一 昭和54年(1979)

「董風」 鈴木賢一 昭和時代後期

常設展

Close-up

展示室2「コレクション展示 日本の人形」も定期的に展示替えを行っています。西澤笛吹コレクションをはじめとする約5,500点のなかから、季節や企画展・特別展などのテーマに合わせて、日本の人形を代表する名品や、希少品の数々を展示します。こちらもお見逃しなく。

とりあわせ
御所人形 鶏合
江戸時代
展示室2
2023年3月7日(火)
～6月4日(日)

鶏合は、闘鶏ともい、雄の鶏同士を闘わせる遊戯。恵比寿(鳥帽子)と大黒(頭巾)に見立てられた童子がそれぞれ鶏を抱えて対峙し、その間には両者の呼吸をうかがう行司役が配されています。鶏を放つ直前の緊張感と臨場感が表現されていますので、ぜひ実物を通してその世界観をお楽しみください!



嵯峨人形 首振唐子

江戸時代
展示室2
2023年7月11日(火)～9月24日(日)

別名「置き上げ人形」とも呼ばれる嵯峨人形は、木彫りに胡粉を塗り重ねて立体的な地模様を作り、鮮やかな彩色で美しく仕上げた人形です。衣装には金や赤が多用され、往時の華やかさが偲べれます。現在は古色を帯び、神秘的な雰囲気と醸し出す本作は、嵯峨人形の名品として知られています。



イベント

Information

つくろう、御殿玩具 ～ふくら雀の絵付け体験～

当館の所蔵品に関わるものを作る「つくろうシリーズ」のワークショップ。御殿玩具は縁起が良いものをモチーフにした手遊びの玩具。福良雀の型に絵付けをして、江戸時代のおもちゃと一緒に作ってみませんか?



ふくら雀(絵付け例)

日時：2023年5月7日(日) 午後2時～4時 会場：当館会議室
定員：16名 対象：小学3年生以上 参加費：600円(鈴代含む)
応募締切：4月11日(火)

【申込方法】
往復はがきに、①参加希望イベント名、②参加者氏名(ふりがな)、③郵便番号・住所、④電話番号を明記のうえ、当館までお送りください。
*往復はがき1枚につき、1イベントずつ応募ください。*小・中学生の場合は、⑤学年、⑥保護者氏名(ふりがな)もご記入ください。*締切日の消印有効。
*応募者多数の場合は抽選。複数応募は無効。

当館ボランティア「にんぼ〜ら」

「にんぼ〜ら」とは、2020年に発足した当館ボランティアの愛称です。当館では、「博物館と人、人と作品(資料)をつなぎ、興味の扉を開くお手伝い」をモットーに、毎年ボランティアの募集を行っており、現在11名の方が登録されています。



ワークショップ「にんらボ「胡粉編」研修の様子

「にんぼ〜ら」は、これまで小学校の学校見学の対応や、ワークショップのサポートを中心に活動してきました。こうしたなか、昨年(2022)は特別展の一部展示解説を行い、11月にはワークショップで講師や司会を務めました。いずれも発足以来はじめての試みでしたが、今後の活動の広がりを感じることができました。

現在、「にんぼ〜ら」は、新たな活動(常設展の展示解説)に向けて、研修に励んでいます!当館を支える「にんぼ〜ら」の活動にも、ぜひ注目してください! ※令和5年度のボランティア募集は、ホームページでお知らせします。

第5回 学芸員の研究ノート

岡本玉水と平田郷陽 ～共に歩んだ人形芸術への道～

今年秋の特別展は、人形作家・岡本玉水(1898～1972)の作品とその生涯を追う回顧展の開催を予定しています。御所人形の作家として知られる玉水ですが、その生涯で、人間国宝の平田郷陽(1903～1981)と深い親交があったことはご存じでしょうか。

玉水と郷陽の最初の出会いは定かではありませんが、すでに昭和2年(1927)5・6月には、二人で関西・中国・九州方面へと、延べ10日以上にわたる旅をしています。これは、玉水・郷陽の二人が、人形芸術の研究と発表を目的とした「白澤会」を創立する前年のことです。歳は、玉水が郷陽より数えで5歳年長の兄貴分であり、共に人形師の家系に育ち、人形芸術を志した若い二人は、大いに意気投合したことでしょう。

その後も二人は、度々二人展を開催したり、人形の制作旅行に出掛けたりしました。さらに昭和5年(1930)、郷陽の結婚に際しては、玉水夫妻が媒酌人を務めるなど、プライベートでも二人の絆は強くなっていきます。

第二次世界大戦後も交友は続きます。昭和29年(1954)、第10回日展において、玉水が「弾奏」で北斗賞を受賞した時の審査員は郷陽でした。共に研鑽してきた友の受賞は、郷陽にとっても感慨深いものだったに違いありません。郷陽が「弾奏」を手にした写真を、玉水はアルバムに大切に保管していました。

このように二人は互いに影響し合いながら、人形芸術の世界をけん引していきました。特別展では、二人の交流にもスポットを当て、ご紹介したいと思います。(学芸員 蟹沢真弓)



玉水の「弾奏」を手を持つ郷陽 昭和29年(1954)

厳島神社に訪れた玉水(左)と郷陽 昭和2年(1927)